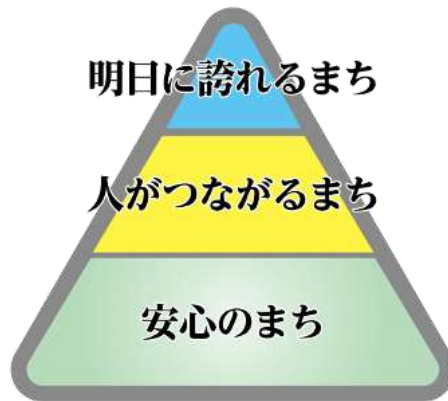


2

令和5年度事業案

基本的な考え方 「幸せになれるまち、都島区」

- 区民の安全・安心を守る防災・防犯などを礎に、活力ある地域社会の実現にむけて、様々な活動主体の取組を支援し、地域活動協議会（まちづくり協議会）を中心としたコミュニティ活性化につなげる。
- 地域の見守りなど、誰もが安心して暮らすための健康・福祉の充実、子育て・教育環境の充実など、現役世代の活力を生み出す取組を重点的に進める。
- 水と緑の豊かな都島区の魅力を発信し、わがまち意識の醸成をはかるとともに、区民の視点に立ったサービスの向上、質の高い行財政運営に取り組む。



**安全・安心の  
まちづくり**

区民の防災・防犯意識を高める啓発に取り組むとともに、警察や地域と連携して、子どもや高齢者の見守り活動等を推進する。

路上喫煙やポイ捨てごみの減少に向けたマナー啓発や放置自転車対策に取り組む。

客引き適正化に向け夜間の街頭啓発に取り組む。



**人と人がつながり、  
助け合うまちづくり**

地域活動協議会を軸とするコミュニティ活性化を推進するため、地域住民のつながりづくりやまちづくり参加に取り組む。

孤立しがちな家庭や育児不安を抱えている家庭を支援するため、子育てイベントや子育て相談等を実施し、子育て不安の軽減を図る。



**明日に誇れる  
まちづくり**

子どものスポーツ・遊び場などの環境づくりや、区の歴史・文化資源を活かした魅力創出・発信に取り組む。

学習支援を含む「子どもの居場所」を開設し、子どもを支える環境の充実に取り組むなど、未来の都島を担う人材育成のための取組を推進する。

**区役所力の強化**

職員の接遇スキルアップによる窓口サービスの向上、人に優しい庁舎づくり、情報発信力の強化を進めるとともに、ICTの活用による業務効率化など質の高い行政運営に取り組む。

2

令和5年度事業案



安全・安心のまちづくり

防災のまちづくり・防犯のまちづくり 【防災活動の強化・推進事業ほか】

現状・課題

防災

区民アンケートにおいて、災害時に対する日頃からの備えについて、約2割の回答者は「備えをしようと思っているが今はまだしていない」との回答。防災意識は見られることから、備えを行うための知識やきっかけが少ない可能性がある。

防犯

地域や警察と連携した啓発等に取り組むことで、犯罪の被害件数が減少しているものの、依然として被害が発生していることから、区民への啓発活動が行き届いていないことが考えられる。

美しいまち

コロナ禍においても工夫して環境美化活動や夜間の環境浄化啓発を継続してきたが、ごみや放置自転車、客引きに対する苦情が依然として多く、さらなる環境美化取組の強化が必要と考えられる。

事業の方向性

安全で安心なまちづくりをめざし、区民の防災・防犯意識を高める啓発に取り組む。また、広報誌や SNS など様々な手段を活用し、効果的な情報発信に取り組む。

取組案

- **防災**日頃からの災害への備えや、迅速な避難行動につなげていくため、高齢者や子育て層など支援が必要な世帯に向けた啓発活動や、地域防災活動への支援を行う。
- **防犯**青色防犯パトロール車による巡回や警察と連携した防犯啓発等に取り組むとともに、様々な広報媒体を活用した防犯情報の発信や街頭犯罪を抑止する環境整備に取り組む。
- **美しいまち**環境美化活動及び夜間の環境浄化啓発について、コロナ禍以前の状態以上に取組を推進するとともに、客引きの適正化等、人に優しく誰もが安全に通行できるまちをめざす。



◀職員による地域安全対策（青色防犯パトロール）事業  
地域見守り隊の皆さんと共に児童の安全確保や警察と連携した犯罪情報の即時アナウンスなどを行いながら、区内を巡回している。



◀地域防災活動への支援事業  
地域防災訓練において、本市職員による講座を行い、避難行動や平時からの備え等について啓発している。



◀都島クリーン作戦  
年2回区内3拠点でボランティア清掃活動を実施し環境美化意識の向上を図り路上喫煙やポイ捨てごみのない美しいまちをめざしている。



◀環境浄化啓発  
京橋地域全体で快適な歩行者空間が実現できるように月2回夜間の環境浄化啓発に取り組んでいる。

2

令和5年度事業案



人と人がつながり、助け合うまちづくり

いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり 【子育て支援】

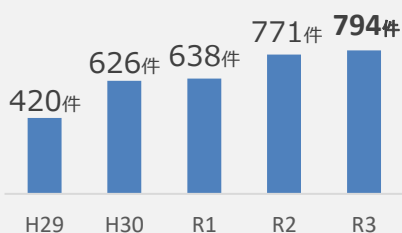
現状・課題

乳幼児健診、関係機関の訪問及び子育てイベントなどを通じて育児相談を実施し、育児不安や悩みの軽減・解消等に取り組んでおり、相談件数は増加傾向にある。

要保護児童対策地域協議会の運営により、児童虐待の未然防止・早期発見・アフターケアの各々の段階に応じた対応を実施している。

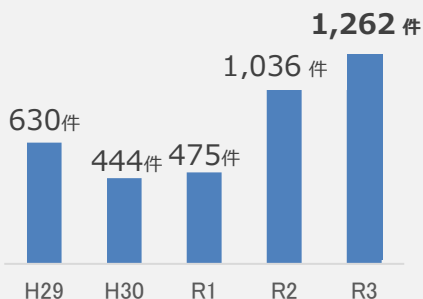
発達障がいやその疑いのある児童生徒が、学校や家庭に適応できず不登校や引きこもりになるケースが増えている。また、年齢が上がるにつれて、問題行動への対応に苦慮している保護者も増えており、臨床心理士への相談件数も増加傾向にある。

子育て支援室における相談件数



相談件数は年々増加。今後もきめ細かな支援が必要。

臨床心理士による福祉相談



令和2年度より、臨床心理士を2名配置。サポート内容も多岐にわたる。

事業の方向性

身近な相談場所や、子育てイベント等により育児不安の軽減を図る。

臨床心理士等の配置や研修等により、発達障がいや不登校等への対応を支援する。

取組案

- 身近に相談できる場所として子育て支援室や子育て支援施設の情報を発信するとともに、子育てイベントへの参加を促す。
- 臨床心理士等による福祉相談、支援関係者・保護者を対象にした発達障がいに関する研修等を実施し、発達障がいや不登校などの課題を抱える児童生徒やその家族への支援を行う。



▲子育てイベントで、子育て支援室を案内  
イベントでは参加者へ声掛けを行うなかで、「子どもがなかなか言うことを聞かないので困っている」などの相談を受け、日頃の子育てに関する悩みを解決する支援を行っている。

2

令和5年度事業案



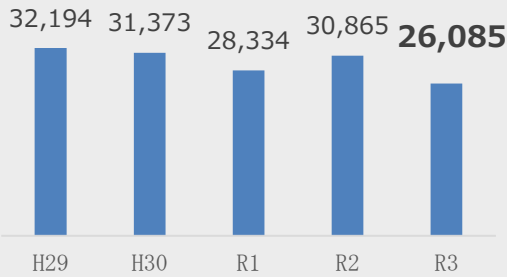
明日に誇れるまちづくり

魅力あるまちづくり

現状・課題

区内には、歴史文化や水辺などの魅力があるものの、認知が拡大していない。

大阪ふれあいの水辺（桜ノ宮ビーチ）利用者数



事業の方向性

水辺などの区内の魅力スポットでのイベントなどを通じて、区内の魅力発信を強化する。

取組案

広報誌や SNS 等を活用した魅力発信を行いつつ、区の愛着につながる魅力創出の取組を進める。

また、水辺のにぎわいづくりを進める観点から、桜ノ宮ビーチにおけるファミリーイベントやスポーツチームとの協働事業を行う。



◀桜ノ宮ビーチフェスティバル（10月1日開催）

大阪ふれあいの水辺（桜ノ宮ビーチ）の利活用を進めるため、共催として参画。  
区が担当した「砂遊びひろば」には470名を超える申込があった。

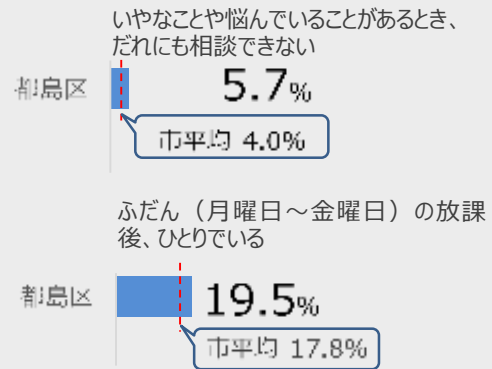
未来の都島を担う人材育成

現状・課題

子どもを支える人や場が不足しており、学びや遊びを通じた子どもの成長の機会を保障する支援が必要。

「子どもの生活に関する実態調査」(28年度実施)

小中学生へのアンケート



事業の方向性

学校や地域団体等と連携し、学習支援を含む居場所づくりを推進し、子どもたちの成長の促進を図る。

取組案

学習支援を含む「子どもの居場所」を開設するとともに、多様な主体による「子どもの居場所づくり」を推進することで、子どもを支える環境の充実に取り組む。



◀都島区小学生サポート事業  
区内の小学生を対象に、学習支援や悩み相談を行う居場所を区内全9地域に開設。